

礼拝の内容

神を礼拝するということは、私たちが神様に対して何かのお勤めをすることではなく、むしろ神様が与えてくださる恵みを、心を開いて受け取ることです。ですから「礼拝をささげる」よりも「礼拝にあずかる」のです。

礼拝は一定の順序で進められ、招き、みことば、聖餐、派遣という4つの部分があります。聖餐は行われる週と行われない週があります。

招き

わたしたちは神によって救いに招かれ、礼拝に集められた者であることを覚えます。過ぎ去った日々を思い起こし、神様の前に静まり罪の告白をします。そして赦しの宣言がなされます。つどいの祈りという、その日の礼拝のテーマに沿った祈りを祈ります。

み言葉

その日の礼拝のための聖書の箇所が読まれます。通常は、旧約聖書から一箇所、新約聖書の福音書以外の箇所から一箇所、新約聖書の福音書から一箇所の三箇所が読まれます。

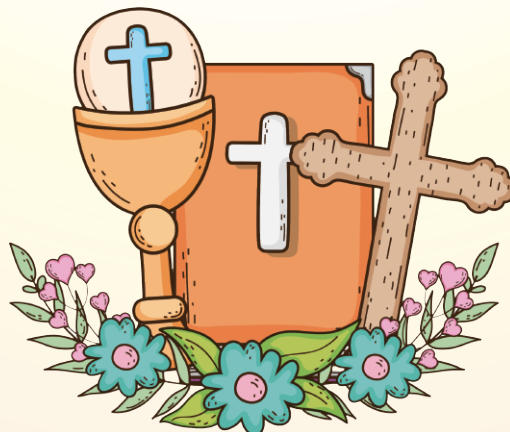
その後、聖書のときあかしである説教が語られます。その応答として讃美歌を歌い、使徒信条またはニケア信条によって信仰の告白をします。そしてみなで心を合わせて教会の祈りを祈ります。

聖餐

パンとぶどう酒（ジュース）をいただく聖餐式が行われますが、毎週は行われない教会もあります。ここで祈られる主の祈りとは、イエスが「このように祈りなさい」と教えられた大切な祈りの言葉です。聖餐が行われない週は、主の祈りは教会の祈りの後に祈ります。

派遣

神様からいただいた恵みへの応答として捧げ物（献金）をし、神様から祝福されて、それぞれの日常へ、隣人のもとへと遣わされていきます。献金は任意であり、自由な意思に基づくものです。強要されたりすることはありません。金額も任意です。



さらにお知りになりたい方は、ぜひお近くのルーテル教会にお越しください。